大阪市立大学同窓会　●文系同窓会 有恒会　●理学部同窓会　●工学部同窓会　●医学部同窓会　●生活科学部同窓会　●看護系同窓会 よつば会　●創造都市研究科同窓会

大阪市立大学 同窓会報

第11号　発行：大阪市立大学同窓会　http://www.osaka-cu.net/

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3－138　大阪市立大学 同窓会事務局(田中記念館内)
TEL：06-6605-2113　E-mail：aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

全学同窓会
三者間の連携をより強固に

大阪市立大学同窓会(通称：全学同窓会)は設立後4年目に入った。この機会に、全学同窓会の過去3年間の活動を振り返り、現状と今後の取り組むべき課題を中心に事務局長の植田浩吉氏(法昭44年卒)にお伺いした。(編集部)

(1)先ず、全学同窓会の設立に至るまでの経緯からお願いします。

従来の大学・在学生支援団体、学友会(平成17年設立)を改組し、「大阪市立大学同窓会」と「大阪市立大学教育後援会」を設立、従来以上に大学及び在学生支援を行っていくことになり、全学同窓会は文系4学部(商学部、経済学部、法学部、文学部)の同窓会、有恒会と理学部、工学部、医学部、生活科学部の各同窓会、看護系同窓会、よつば会、創造都市研究科同窓会の7同窓会が統合する形で平成24年11月に設立されました。

(2)各学部同窓会との関わりと役割分担について説明頂けますか。

全学同窓会は卒業生の力を結集し「大学・在学生支援」を強力に推進します。各学部同窓会はその傘下として存続、従来通り自主的活動を継続し全学同窓会と緊密に連携を保ち、全学同窓会の要請を受けて所属の同窓生に働きかけ全学同窓会と一体となって「大学・在学生支援」を行います。

(3)全学同窓会の運営及び活動資金について。

全学同窓会の事業運営は新入生・在学生(保護者)から納入いただく大学支援事業費(名目は教育後援会費)の一部および各学部同窓会から拠出される負担金を中心に推進されております。

(4)大学・在学生支援への対応に関連しますが、教育後援会との役割分担について。

ともに大学および在学生支援が目的ですが、これまでの学友会組織を母体に再出発した教育後援会は課外活動中心に在学生支援事業を行い、全学同窓会は教育後援会が対応困難な大学・在学生支援事業(就職支援・進路相談の講師、産学連携支援のアドバイザーなど卒業生のボランティア的協力、知識・知恵・ネットワーク活用が不可欠な支援内容)を担当します。

(5)同窓会の設立と併せて三者協議会が出来ましたが、この組織が果たす目的と役割についてお話し頂けますか。

支援を受ける大学と支援を実行する団体の教育後援会および全学同窓会の三者はそれぞれの代表者をメンバーとする「大学支援協議会」(通称：三者協議会)を設立し、三者間の連携をより強固にしながら、それぞれの課題・要望等を共有し大学支援についての方向づけと推進を行い、従来以上に強力に大学支援及び在学生支援を果たして行くこととしております。具体的には、三者は月1回、事務レベル三者協議会を開催、年に2回程度三者協議会(トップ会議)を開催、推進中です。

(6)全学同窓会は設立後3年を経過しましたが、その間の活動は如何でしたか。

以下2項目を重点に取り組んで参りました。

①広報・PR活動

全学同窓会報の発行(1月5月9月の年3回、各回5万部)と全学同窓会ホームページにより、大学および同窓会活動のPRと支援協力要請を行うと共に全国26支部の総会などへ会長・副会長が赴き、直接卒業生に対して大学夢基金寄付協力含め大学・在学生支援協力を要請しております。

②在学生支援

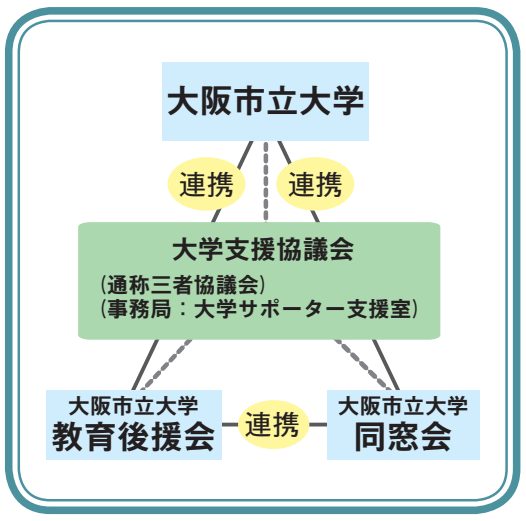
「就職支援・進路相談」(公務員・教員・民間企業志望者と話しやすい若手のOBOGとの交流会等)中心に「国際力強化支援」「キャリア・デザイン支援」「クラブ支援・交流」ほか様々な在学生支援事業を行っております。就職支援や公開講座の講師の皆様には在学生諸君のためにご支援ご協力頂きましたこと、紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

(7)平成28年度に入りましたが、今後の取り組むべき課題についてお聞かせ下さい。

本年も在学生支援事業中心に広報・PR活動、特に重点3テーマ(「全学同窓会報」「ホームページ」「名簿」の更なる充実・強化)に注力して参ります。新規取り組みとしては大学支援として五代友厚銅像憩いの広場の植栽及びテーブル・ベンチ等設備一式を寄贈。また、大学が行う地方入試説明会について大学の知名度向上目的に各支部へ支援協力要請を行います。各支部支援事業については地方支部総会への在学生保護者の招待拡大に加えて支部総会への新卒者招待支援を新しい試みとして実施し、更なる支部活性化を図って参ります。

以上、全学同窓会(卒業生中心)は教育後援会(保護者中心)と相互に連携協力し合い、母校と在学生支援に向けて今後とも強力に取り組みを行って参りますので皆様のご理解とご支援ご協力を是非ともお願い申し上げます。

大学支援団体の位置付けと連携関係



28年度活動計画及び予算案

単位：千円

事業区分	全学同窓会活動計画	収入源別支出内訳 大学支援事業費(保護者の納付金)	各同窓会支出	合計(前年度)
在学生支援	①就職支援・進路相談 ②国際力強化支援 ③キャリアデザイン支援(公開講座等) ④クラブ活動・各種行事支援	2,620	8,198	10,818 (7,885)
大学支援	①夢基金寄付募集協力 ②図書・備品・施設等寄付 ③産学官連携支援協力 ④大学主催行事への参画・協力	0	12,359	12,359 (1,920)
同窓会・卒業生支援&共通項目(広報・運営費)	1.広報・PR活動 ①全学同窓会会報発行(年3回 1、5、9月) ②全学同窓会ホームページの充実・強化 ③全国各支部(26支部)への協力要請活動	8,630	500	9,130 (6,635)
	2.各同窓会・全国各支部活動支援 ①各同窓会支援(名簿管理・HP支援等) ②全国各支部活性化支援(名簿提供等) ③談話室(文化交流センター)管理運営支援	1,500	398	1,898 (1,127)
	3.組織運営費	3,750	468	4,218 (1,538)
合計		17,400	21,923	39,323 (19,105)

※保護者の納付金(名目：教育後援会費　保護者納付16,000円/人・年の内、3,000円/人が全学同窓会活動見合分)

大学サポーター支援室
三位一体で市大を支える要の役割を

大学サポーター支援室は、平成23年7月に当時の総務課内に「大学サポーター事務局」として誕生しました。その後、平成27年4月には、名称を大学サポーター支援室に変更となりました。本学の重要なステークホルダーである卒業生、保護者の皆様と大学との関係を強固にするための支援を行う室として再スタートを切ったというわけです。

基本的な業務としては、大きく分けて二点があります。

一つは、大学を誇りに思い大学との絆を実感してもらうための活動です。

若い世代を意識した卒業生との交流サイトとして市大アラムナイfacebook、大学ホームページからは大学からの様々な情報を卒業生、保護者向けにアップしています。さらに同窓会や教育後援会と連携して、在学生や卒業生との交流を意識したイベントや、大学のプレゼンスを高めるための講演会などを企画実施しています。さらに、キャンパスツアーでは、多くの卒業生の方々に新しくなった大学をご案内しています。今年開催するホームカミングデーでは、同窓会、教育後援会と連携し、「健康」を一つのテーマにして、疲労測定等を予定しています。

二つ目は、大学の未来を支えるための募金活動の事務局という業務です。

多くの卒業生・保護者の方々に、これまでもご支援いただいていますが、大学を取り巻く経営状況が厳しくなっていく中で、大学にとってあるいは学生にとってよりよい教育・研究環境を整えるために、寄付金活動はさらに重要度を増してきています。これからも同窓会、教育後援会と連携して、都市とともにある大学、大阪市立大学を大いに盛り上げていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

(室長　小澤洋子)

教育後援会
学生支援のさらなる進化をめざして

教育後援会は、「がんばれ市大生！―教育後援会は学生生活を全力でサポートします！―」のキャッチフレーズの下、学生の皆さんの社会性や人間性を育むための支援事業として(1)勉学活動支援(TOEICやTOEFLの受験料補助、優秀成績者の表彰、大学院学生の学会発表等補助)、(2)課外活動支援(クラブ・サークル支援、学生行事助成、課外活動表彰など)、(3)就職活動支援、(4)国際交流支援(短期留学支援、学生国際交流支援)、(5)教育環境整備支援(学情センターへの図書の寄贈、憩いと交流の場のための施設・設備の寄贈)などの事業や保護者の皆さんと大学の交流を深めるための保護者会員交流支援事業(新入生保護者懇談会、保護者交流会)などの支援を行っています。

それらの新規支援事業の一つとして、平成26年度より、「保護者の皆様と大学の懸け橋」となるべく設けられました「新入生保護者懇談会」を開催し、今年度で3回目を迎えることとなりました。これまでは教育後援会主催で行ってきましたが、保護者の皆様にも大変好評であり、また開催も軌道に乗りましたので、28年度開催の懇談会から、大学の主体性をより強くするために大学と教育後援会の共催で行うことになりました。

また、昨年度からの新規事業でありますクラブ・サークル特別支援において、新武道場の畳(96畳)を入れ替え、銀杏祭などに使う6脚テント13張とクラブの団旗(18クラブ分)を新調し、寄贈しました。今年度はグラウンドの安全ネットの張り替えなど学生の皆さんが安全に課外活動に励めるよう支援する予定です。さらに学部学生の皆さんの研究・調査活動の活性化対策として、学部学生旅費等補助事業を始めました。

また、教育後援会は保護者会員中心の組織でありますので、それに相応しい組織となるように、今後とも評議員、幹事、常任幹事などの役員に保護者の方に就いていただき、保護者の視点からより活発な学生支援組織として進化することによって、大阪市立大学の学生にとってさらなる活性化の一助となりたいと考えております。

今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

(代表幹事　湯浅勲)

新大学実現に向けた動きと今後の取り組み

大阪市立大学法人運営本部
大学改革・戦略担当部長
川上　悟

大阪府及び大阪市は平成27年12月に東西二極の一極を担う「副首都・大阪」の確立に向け副首都推進本部を設置しましたが、平成28年4月開催の副首都推進本部会議において議題の１つとして「大学統合に向けた検討体制や進め方について」が議論されました。

副首都推進本部会議では新大学設置の目的は大阪の発展を牽引する魅力ある大学をつくることであり運営費交付金削減・効率化のためではないこと、法人の設立形態・統合方式は府市共同で設立団体となる新設合併、統合プロセスは法人統合後、大学統合（両大学統合による新大学設置）の方向を軸に今後検討をすすめていくことが確認されました。

今後、平成31年度法人統合、平成34年大学統合（新大学設置）というスケジュールを念頭に置いて府・市、両大学で検討を進めて行くことになります。

本学としましては新大学の実現までの間、荒川新理事長・学長の下、市立大学のプレゼンスを高めるための取り組みを進めるとともに新大学の実現を待たずして府立大学と連携・共同で実施できる取り組みについても併せて進めて行く予定です。

退任祝賀会
西澤良記前理事長兼学長

6月14日(火)リーガロイヤルホテルにおいて内外の関係者300人を超える大祝賀会が開催されました。

西澤良記ご夫妻と児玉隆夫全学同窓会会長

代表発起人は荒川哲男現学長で近隣医学部関連諸大学・医療機関代表の祝辞が次々と続きました。舞台には長年苦労を共にされた奥様が同席され、「面と向かっては言いにくいので、今この席で妻に感謝をささげたい」と宣言され、主役の表情が印象的でした。また横浜市立大学と名古屋市立大学の学長がそれぞれ祝辞の中で「大阪市立大学は我々三兄弟の長男として、今後も連携を育てていきたい」と述べられ、今までの実績にも触れられたのがサプライズであった。

西澤前学長が6年間の在任期間のご苦労について述べられた挨拶の要旨は次の通り。

「就任時に定めた重点三戦略についてはすでに述べた通り。この路線で開設にこぎつけたのが《人工光合成研究センター》(2013)、《健康科学イノベーションセンター》(2013)、《医学部附属病院先端予防医療部附属クリニックMediCity21》(2014)、《都市防災教育研究センター》(2015)の四施設であった。また任期中最重要課題であった大阪府立大学との新大学に向けた取り組みについては未だ道半ば。荒川哲男新理事長・学長を中心にした全学一致の協力体制による大学の新生を願う次第です」

荒川新学長(写真右)と西澤前学長(同左)

（編集部）

就任記念祝賀会
荒川哲男理事長兼学長

7月30日(土)午後6時30分よりホテルニューオータニ大阪で荒川哲男理事長兼学長就任記念祝賀会が300名を超える出席者を迎えて開催された。祝賀会に先立って荒川先生より『我が母校が輝きを増すために』と題して自己紹介と学長に就任しての抱負が語られた。市立大学を大阪の健康都市づくりのための「笑顔あふれる知と健康のグローカル拠点」とするため7月には拠点推進会議、推進統括室を立ち上げたとの報告があった。

挨拶する荒川哲男理事長兼学長

荒川学長の挨拶の後、祝賀会発起人を代表して生野弘道仁濤会(医学部同窓会)会長より、荒川新学長は西日本で初めて全国医学部長病院長会議会長を務めたことが学長選考委員に高く評価されたと、新学長の経歴を紹介するとともに2022年4月の新しい公立大学誕生に向け、支援して行きたいと挨拶があった。

続けて辻洋大阪府立大学理事長兼学長らより来賓の祝辞をいただいた。

その後、塚本喜左衛門教育後援会副会長・有恒会副会長より「バイオや医療分野・教育産業のグローバル化の時代、医学部出身の学長は成長分野のエキスパートとして心強いリーダーです」と乾杯の祝辞があった。

また、京都大学iPS細胞研究所所長山中伸弥教授をはじめ多くの方々からの祝電が披露された。

祝賀会終盤、出席者へのお礼の言葉と荒川学長ご夫妻への花束贈呈が消化器内科学藤原靖弘教授より行われ、坂口浩樹第3内科同門会会長より閉会の辞が述べられ、最後に荒川学長から「ありがとうございました」と述べられ祝賀会を締めくくった。

（編集部）

学長特命科目（第二回）「大阪学」
―グローバル視野から見る大阪―の紹介

理事兼副学長　井上徹

私たちは、国際的な競争の激化、企業のグローバル化など、日本を取り巻く社会情勢が国際化に向けて大きく変貌を遂げており、グローバルに活躍する人間へのニーズが一層高まっていることを日常感覚で実感しています。公立大学である本学には、こうした国際化の潮流のなかで、大阪という地元の地域社会にアイデンティティーを抱きながら、世界で活躍できる人材の育成が求められています。そこで、西澤良記前学長の発案により、平成27年度後期より、全学共通教育・総合教育科目A「特別枠」の学長特命科目として、「大阪学―グローバル視野から見る大阪―」(以下、「大阪学」と略称)を新設しました。「大阪学」の狙いは、本学の学生がグローバルな視野から大阪という地域を捉え、国際化に柔軟に対応できるような人材へと成長することを期待する点にあります(詳細は『有恒会報』第204号参照)。

グローバル社会にあってどのような学生を育てるのかを模索する新たな試みの一つです。

「大阪学」の講師としては、日本にとどまらず世界でも活躍している社会人、優れた教育研究成果を上げている本学教員をお招きし、オムニバス形式で授業を担当していただきました。「大阪学」には全8学部から86名が登録し、毎回70名前後が出席。授業中に講師との間で活発な議論が行われ、授業の終わりに提出されるコミュニケーションカードでも多くの質問、コメントが記載されるなど、能動的学修にふさわしい内容となりました。

さて、試行2年目の本年度後期の「大阪学」では、学外からお招きする社会人講師は10名。このうち、藤沢久美(シンクタンクソフィアバンク代表)、古川弘成(阪和興業株式会社代表取締役)、畑田美智子(ガラスアーティスト)の3氏は続投、新たにお招きした社会人講師としては、倉持治夫(大同生命保険顧問)、橋村公英(東大寺執事長)、坂本陽子((株)ワイエムエス社長)、米田昭子(近鉄百貨店商業開発本部参事)、鳥井信吾(サントリー副会長・大商副会頭)、生野照子(社会医療法人浪速生野病院)、西浦けい子(マンダム人事部主幹)の各氏。大阪の実業家・企業人、評論家、宗教人、アーティストなど多彩な顔ぶれであり、グローバル化、ダイバーシティ、現代人の心性など、それぞれの持ち味を活かした授業を展開していただきます。

今年度で試行期間を終えることになりますので、荒川新学長の方針のもと、「大阪学」を見直し、来年度以降の授業計画を検討しているところです。ご期待いただければと存じます。

末尾になりましたが、「大阪学」の開設・運営には、大阪市立大学同窓会及び有恒会の支援を頂戴しています。改めて関係各位に謝意を表させていただきます。

就任ご挨拶

櫻木弘之(理事兼副学長)

本学同窓会の皆様には、平素より本学の教育と研究に多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年4月、荒川新理事長兼学長の下に発足しました新体制において、理事兼副学長(研究・情報・国際交流担当)を拝命いたしました。言うまでもなく教育と研究は大学の最も重要な柱であります。本学は長年にわたる先輩方のご尽力により、多様な分野に有能な教員を擁する伝統ある総合大学として、高度な研究に裏打ちされた教養教育、学部・大学院教育を実践し、多くの有為な卒業生を社会に送り出してまいりました。この教育・研究基盤の更なる強化と併せ、戦略的に本学の強い研究分野を重点強化し、大型の競争的外部資金獲得にも全学を挙げて取り組んでおります。また、教育、研究の両面での国際力の強化と情報基盤の整備も今後の重要な課題です。これらの取り組みを強力に推進し、本学のプレゼンスを一層高めていく先に、現在、様々な角度から検討が進められております本学と大阪府立大学の統合による新大学のあるべき姿が定まり、真に魅力ある新大学の創設と発展を実現することが可能になるのではないかと思います。今後とも本学同窓会の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

大阪市立大学・都市研究プラザ創立10周年記念国際シンポジウム

「創造都市・包摂都市とレジリエンス」

2016年9月22―24日
会場：大阪国際交流センター(上六)、学術情報総合センター(杉本)、各現場プラザほか

2006年から都市研究プラザが実施してきた、文部科学省・G-COE(2007―2012)および共同利用・共同研究拠点(2014―2019)の課題を中心に総括し、次の10年の方向性を展望するために国際シンポジウムを開催する。22日(祝日)および23日(金)は大阪国際交流センター小ホール、および豊崎・船場・西成の現場プラザで行われる予定である(22日、小ホールのみ同時通訳、他は英語・日本語逐次訳あり)。

主要テーマとして、文化創造性・地域福祉・芸術の各々とレジリエンス(復元力)に分け、B. シェルドン(シドニー大学・メルボルン大学)、C. ケステルート(ルーベン大学)、M. ヴェンテ(Motte)、F. バルデンベルガー(ドイツ日本研究所)などの専門家を招聘するとともに、自治体や市民団体、中・高校生などの報告も予定している。

また、梅田近辺の長屋に設置した豊崎プラザでは、母屋でのワークショップとともに周辺の中崎町の街歩きや「暮らしの今昔館」の見学会を行う。大阪駅前第2ビル6Fの文化交流センター、あべのメディックス、および杉本キャンパス・学術情報総合センター10階会議室などにおいて、都市プラザの特別研究員による研究成果が披露されるとともに、「昭和記念館と三木茂」(国土交通省)、「開高健と田辺」、「美章園の関一(せきはじめ)邸」、「大塚国際美術館と信楽焼」など、世界の中の大阪の創造性や包摂性をテーマにした報告を予定している。

トークセッション「大阪市立大学の建築を語る」

日時：平成２８年１１月４日(金)１８：３０～２０：００
場所：田中記念館ホール

杉本キャンパスは昭和8年に本学の前身である大阪商科大学として整備され、国の登録有形文化財である1号館など当時の建物4棟が現在も使われています。

これらは世界を席巻した、モダニズム建築運動の初期の生き証人であり、現在までのさまざまな物語を伝える建築でもあります。

当日は本学の建築の魅力を感じていただくため、この分野に関わる教員が一堂に会し、多岐にわたる視点から語っていただきます。

事前の申し込みは不要です。同窓生の方のご参加をお待ちしています。

- 嘉名光市（工学研究科都市系専攻准教授）
- 北村昌史（文学研究科世界史学教室教授）
- 倉方俊輔（工学研究科都市系専攻准教授）
- 小池志保子（生活科学研究科居住環境学講座准教授）
- 安竹貴彦（法学研究科教授、大学史資料室長）

（大学運営本部学務企画課、法人運営本部管理課）

五代友厚記念事業への取り組み 検討委員会スタート

全学同窓会では、五代友厚銅像完成を機に今後は寄付残金（約1,000万円）を有効に活用し、五代友厚記念事業に取り組むことを申し合わせた。

その主旨は「五代友厚の志、進取の精神、数々の偉業等を在学生を始め卒業生、大学関係者、大阪市民等を対象に広く伝承するための事業を目的とする」。

併せて、記念事業への取り組み体制として児玉全学同窓会会長を委員長に五代プロジェクトメンバーを中心に検討委員会がスタートすることになった。

当面の主たる活動事項は次の通り。

1）「五代銅像のある広場」を大学へ寄贈（贈呈式は11月3日の予定。広場の名称は検討中）
2）「五代友厚銅像建立記念誌」の発行（本年10月刊行予定）
3）大学の講座に五代友厚を冠とする「特別講座」を設置する
4）その他、五代記念事業として企画立案等

五代銅像建立プロジェクトの収支は次の通り。

（単位：円）

1	収入の部	寄付金	49,050,000
		式典会費、祝い金他	481,896
		計	49,531,896
2	支出の部	銅像等製作費	17,931,136
		広場造成費	12,009,384
		銅像完成記念事業費	3,090,297
		印刷・郵送費、記念品費等	5,606,983
		計	38,637,750
3	収支差額：合計		10,894,146

※上記報告は平成28年８月15日現在です。前号（５月発行）締切以降、下記三名の方から寄付金（各1万円）を受領しました。

山口英昌（工昭41卒）島一秀（医昭35卒）里田勝子（生科昭30卒）

尚、五代友厚銅像建立寄付金は7月末日で締め切りました。

ご協力ありがとうございました。

（五代友厚記念事業検討委員会）

第125回ボート祭 初夏の大川で水上の熱戦

第125回ボート祭が、5月21日(土)22日(日)の2日間にわたり開催された。毎年5月に桜ノ宮の大川で行われるこのボートレース大会は、市大生だけでなく一般市民も参加することができる。1889年から続いており、今年で125回目という大きな節目を迎えた。荒川学長による開会の挨拶では、本大会のルーツである「水上運動会」について触れ、その歴史の深さを語った。

レースは学部の部、文化系サークルの部、体育会系サークルの部、教職員の部、女子の部、市民の部の6つの部門に分かれている。また、特別レースとして学長レースと学部選抜レースも行われ、市大学長艇は惜しくも府大学長艇に敗れ2位だった。どのレースも熱戦を繰り広げ、大きな盛り上がりを見せた。

大阪北支部第555回例会 大阪南支部と初の合同開催

平成28年7月27日(水)、阪急グランドビル19F『関西文化サロン』で、有恒会大阪北支部第555回例会が開催され、38名が出席しました。

今回は初めての試みとして大阪南支部との合同開催となり、両支部から多数の参加があった。

地元大阪の同窓会活動を盛り上げるためには、両支部の協力体制が必要であり、今後は年1回程度の合同開催を検討する。

当日の講演テーマは「人工知能（AI）は、どこまで社会を変えるか」。

講師は、大阪市立大学経済学部・経済研究科　橋本文彦教授。

橋本文彦教授から、「機械の身体と人間の身体 機械の心と人間の心」のレジメに基づき講義を頂いた。

人工知能の開発と進化の歴史。AIの二つの目的、存在の類似から関係の類似への詳しい解説があった。

最先端技術の一端に触れる事が出来、意義深い例会となった。

懇親会は、橋本教授と有恒会本部からの参加もあり、楽しい懇談のひと時でした。

（白崎孝志　商昭45卒）

第15回ホームカミングデー 開催のお知らせ

日時：平成28年11月３日（木・祝）
午前10時～午後６時
場所：杉本キャンパス
（学術情報総合センター他）

今年は、荒川新理事長兼学長のもと「笑顔あふれる知と健康のグローカル拠点」というスローガンにあわせて、健康をテーマに小野薬品工業株式会社の相良社長様にご講演いただいたり、高原記念館で疲労測定を行うなど、様々な企画が用意されています。また今年は、学生が主催する銀杏祭の初日とも重なっており、例年以上に卒業生、学生、保護者で賑わうのではと期待しています。（大学サポーター支援室）

（＊）当日は午後２時から約１時間、全学同窓会の平成28年度定期総会を同時開催します。

（＊）銀杏祭の今年のテーマは「Crazy for 遊」です。開催期間中はプロのアーティスト・バンドの演奏、仮装パレードなどあり、また期間中はクラブサークルがこぞって出す模擬店（100店舗以上）があります。

同窓会 支部だより

ジャカルタ支部

ジャカルタ支部イベント幹事補佐の比嘉です。

7月30日に開催されました「第6回OCU芝刈大会」の結果を報告します。

今回の芝刈大会はJababeka Golfで開催致しました。皆様のご協力によりスムーズに会を進行することが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。

個人戦はグロス80／ネット75で中田さんが優勝し、ベストグロス賞も同時受賞。

OCUジャカルタ支部エースが実力を遺憾なく発揮して頂きました。三商大戦でも宜しくお願いします。

2位は津田さん（グロス101／ネット83）、3位に吉野さん（グロス97／ネット84）でした。

新ハンデ改定の際には、各々の新ハンデに対する議論も白熱し、大きな盛り上がりを見せました。

次回は三商大戦前の練習を兼ねて、恐らく10月頃？に開催したいと思います。JKT支部の参加人数も減少傾向ですので、新規会員の捜索も進めたいです。

（今後の予定）

・11月の三商大に向けて、ユニフォーム作製を進める。

・OCUタイとの交流戦を田宮さんと打合せ（OCUタイの皆様には三商大in Jakartaへの参加依頼）。

・「じゃかるた新聞」への記事記載（他大学に向けて交流戦の公募依頼を含む）。

・インドネシアへ駐在する市大OB情報を確保する為、卒業証明を取得した履歴を照会し、新規会員に勧誘する。

（比嘉恵作　商平24卒）

有恒会京滋支部

有恒会京滋支部　定時総会が平成28年6月4日(土)、琵琶湖ホテル　瑠璃の間で開催されました。

大学より理事長兼学長荒川哲男様、全学同窓会会長児玉隆夫様、有恒会本部より副会長森本喬様、同羽原顕三様、大学サポーター支援室長小澤洋子様をお迎えして、京滋支部定時総会が開催された。今回初めての企画として、滋賀県での開催を試みた。女性や高齢の会員が参加しやすい土曜日の昼間に会を設定し多くの会員が集った。会場は琵琶湖を見晴るかす風光明媚なロケーションにあり、同ホテルの元社長である中野幹事のお世話で美しい風景と美味な料理を堪能することが出来た。

平成28年度の事業計画は、『我々は、同窓生にとって楽しく役に立つ集いを行い、母校と地域社会への貢献をめざす。』という考えを軸に、前年の目標を継続して実施していくこととした。

議事終了後、荒川理事長兼学長より、大阪府立大学との統合問題に対する新理事長としての取り組み姿勢や新理事長の新構想「三本の矢」（匠、叡智、身体力の結集）についてお話があった。また、大阪市の運営費交付金からは、老朽化したクラブハウスや食堂の改修費が出ないので、卒業生の寄付が不可欠であると訴えられた。

児玉全学同窓会長からは、全学同窓会化の礎を築くためにもう少し努力するつもりであるとのお話があった。

懇親会は森本有恒会副会長の乾杯発声に始まり、美味しい食事をいただきながら旧交を温めた。9人もの新会員（お久し振りの方を含め、乾宏、山本順一、稲垣隆、木村進、渋谷学、杉原拓、猪木菜央、高橋優人、鳥殿奈央の各氏）が参加され紹介された。

最後に塚本支部長が朗々とプロローグを詠じて「桜花爛漫」を大合唱して散会した。

今年度の例会予定は次の通り。

10月11日(火)
第46回旧三商大合同懇親会
12月22日(木)　例会（忘年会）
1月　若手の会
3月　例会（会員スピーチ）
4月　バスツアー
6月　定時総会

（藤野正純　商昭51卒）

台湾支部

北陸支部の誉田支部長が仕事のご関係で台湾においでの折、6月7日(火)台北市内で懇親の場を設けました。

市大同窓会・有恒会台湾支部は、昨年まで6名しかいなかったメンバーが、今年に入り2名帰任されてしまったため現在4名と非常に寂しい状況にあります。

北陸支部長とは年齢が離れているので、同窓生での知り合いはいないものの、名刺交換で仕事では何らかの繋がりがあることがわかり、世間の狭さを感じました。

また、同じ大学出身ということだけで、大先輩とも親しみをもって繋がれるのもこの会の良さのひとつだと感じました。

最後は、大学より借用の大学旗を広げての記念撮影となりました。

今後はもっとメンバーを増やして輪を広げて行きたいと思っていますので台湾に赴任されている方、在住されている方、留学から戻られた方が、お知り合いにいらっしゃいましたら、学部問わずご紹介ください。

連絡先　全学同窓会・有恒会台湾支部　中野元紀（nakanotw@icloud.com）

参加者：誉田豊（北陸支部長・商昭44）、垣尾聡（経平2）、高木謙次（工平8）中野元紀（商平10）

奈良支部

奈良支部（高橋敏朗支部長）の平成28年度総会が5月28日午後1時からホテルレガーレ春日野（奈良市法蓮町）で開かれました。来賓として堀井巌参院議員（奈良選挙区）、櫻木弘之副学長、西口克彦全学同窓会副会長、牧野忠廣、羽原顕三両有恒会副会長も駆けつけ「支部の発展を」とエールを送っていただきました。

総会の冒頭、高橋支部長が「同窓会としての存在意義を高めるため、社会貢献活動の一環として会員の皆さんによる人材登録派遣制度をスタートさせ、今後、軌道に乗せていきたい」とあいさつ。

櫻木副学長が「大阪府立大との統合が動き出した。高レベルの魅力的な新大学実現に向けて、同窓会の皆さんの協力は不可欠」と強調。

この後、元大阪市立大生活科学部教授で学校法人きのくに子どもの村学園学園長・理事長の堀真一郎氏が「手を使って考える子どもたち」をテーマに講演。

引き続き懇親会が開かれ、出席者は自己紹介や近況報告などして親睦を深めました。

同支部では今年11月6日、第24回見学会を実施します。桜井市の「オーベルジュ・ド・ぷれざんす桜井」や談山神社、聖林寺などを訪れます。会費8000円。問い合わせは、一柳茂事務局長電話0744(45)2405へ。

（藤山純一　法昭51卒）

同窓会 TOPICS

平成28年度　有恒会定期総会開催

6月11日、本学杉本キャンパスの学術情報総合センターで、平成28年有恒会評議員会、定期総会、講演会および懇親会が開催された。

会は学術情報総合センター10階大会議室で、本学グリークラブ及び南湊会(本学グリークラブOB)による式歌斉唱から始まった。

1．評議員会・定期総会

評議員会は有恒会会長の尾山基(商昭49)による挨拶の後、平成27年度及び28年度の議案が提案されて全て承認された。

この後すぐに定期総会に移り、賛成多数により承認された。

2．講演会

「我が母校が輝きを増すために」と題して、今年度より本学の理事長兼学長に就任した荒川哲男氏が講演を行った。要旨は本学の歴史や学長自身の経歴、府市大統合についての現状、今後の本学が目指す方向性について話された。とりわけ強調されていたのは、学長自身こだわりを持っているという「サムライ魂」についてであった。学長は本学の創立に深く関わり、本学杉本キャンパス内に銅像が建てられた五代友厚について触れ、「五代友厚は生粋のサムライであり、彼は常にサムライ魂を大事にして新しいことに挑戦していった」と語った。

この他に、府市大統合の現状について、統合によって非常にスケールメリットの生きた新公立大学になると期待している。また、今後の本学の目指す方向性について「笑顔あふれる知と健康のグローカル拠点」というスローガンを掲げ、都市大阪のシンクタンク機能としての本学の機能を高めること、より専門性の高い人材の育成を行えるようにすること、グローバル化の時代に対応できる国際力の強化を行うことの三点を重点戦略として取り組んでいくとの話で終えた。

3．懇親会

SHK(市大放送研究会)が司会を務め、会長挨拶、来賓紹介、来賓挨拶に続き、乾杯に移った。本学ジャズ研究会によるBGMの中、参加した会員たちは料理や酒類に舌鼓を打ちつつ、同窓生との思い出話に花を咲かせるなど、会場は賑やかで楽しい雰囲気に包まれた。会の盛り上がりも最高潮を過ぎたころ、抽選会が開催された。懇親会の終わりに、有恒会副会長塚本喜左衛門(経昭46)の総締めで本学の逍遥歌「桜花爛漫」を参加した全員で歌い、威勢の良い歌声が会場に響き渡り、懇親会の最後を締めくくった。

(丹下舜平・法学部二回生)

看護系同窓会　よつば会

「先輩との交流会」の取り組み

2016年1月号でも紹介させて頂きましたが、看護系同窓会よつば会は大阪市立大学医学部附属厚生学院を前身とした歴史と伝統のある看護系の同窓会です。そのため、同窓生は保健師、助産師、看護師をはじめとし、産業保健師、養護教員、教員、訪問看護師、NPO職員等看護関連の多職種に従事し、活躍の場も日本だけでなく海外にも広げています。

その経験を活用し、平成26年度より、3年次の学生を対象として進路ガイダンスの「先輩との交流会」を行っています。会員の個々の体験をもとに学生達と意見交換し、現場で働く看護職の生の声を届けています。この取り組みは現在までに3回開催され、毎回45名余りの参加があり、活発な意見交換がされています。学生の卒業後の進路等キャリアデザインがイメージできる支援に繋がっていると実感しています。

また、看護系同窓会の北陸支部(石川県支部)が設立され、会員の同窓会に対する愛着と意識の向上がみられています。看護系同窓会よつば会のさらなる発展に向けての活動に期待したいと思います。

大阪市大スポーツアソシエーション(OCUSA)第27回定期総会

7月2日(土)学情センターにて開催。大学からは井上副学長が出席した。

OCUSAでは新会長の神門　登氏を中心に本学スポーツの一層の発展を目指し、本年度は特にグラウンドの芝生化など環境整備に注力する。

当日はボート部、拳法部等のクラブ活動に対し優秀賞の表彰を行った。

本年度の主たる役員は次の通り。

会長　神門　登(工・昭45)
紅撓会(ボート部)
副会長　山本　孝(工・昭45)
清光会(柔道部)
同　杉本　俊門(医・昭54)
蹴澪会(医学部サッカー部)
同　柴田　洋(商・昭57)
ソフトボール部OB会
同　吉田　祐一(商・昭62)
ラグビークラブ
事務局長　徳尾野　徹(工・昭61)剣友会(剣道部)

お知らせとお願い

全学同窓会のホームページを是非ご覧下さい。

◆全学同窓会と各同窓会の最新スケジュールや活動内容、大学の動向など最新情報がご覧いただけます。こちらからご覧下さい。

HP　大阪市立大学同窓会　検索

◆また、メールマガジン・ニュースレター配信ご希望の方や全学同窓会へのご意見・お問い合わせも上記からお願いします。

全学同窓会事務局：06-6605-2113
aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

第19回 大阪市立大学 ゴルフコンペのお知らせ

主催OCUSA、体育会、教育後援会、
全学同窓会の後援で次の通り開催される。

日　時：　2016年10月27日(木)
場　所：　飛鳥カントリー倶楽部
参加資格：大阪市立大学・卒業生、教職員、教育後援会会員、学生その他
競技方法：18ホール　ストロークプレー、ダブルペリア方式
費　用：　総額16,500円(キャディー付き)

参加希望者はOCUSA(島田ゴルフ担当)宛
10月8日(土)迄に申し込む。

会員投稿コーナー

大阪市立大学 生活科学部の歴史 2

岩堂美智子(家政学部昭和40年卒)

研究者育成をめざす大学院は1953年(昭和28年)、我が国最初の家政学研究科(修士課程)として、まず食物・栄養学専攻が認可された。その後、各専攻の上に次々に修士課程が認可された。学部は1967年(昭和42年)には単一の「家政学科」から食物学・被服学・住居学・児童学・社会福祉学の5学科に分かれた。1968年10月には杉本町に新学舎が竣工(写真①)。さらに1975年には学部名称を「生活科学部」と変更、大学院は博士課程(前期・後期)として認可された。家政学・生活科学系では日本最大の研究教育組織となったのである。発足当初より男女共学の本学部は旧来のホームエコノミクス、家事や家庭管理に関する実践的な学問という捉え方を超えて、人間生活全般にわたる生活上の諸問題を科学的に解決する実践科学として歩み続けて来た。この間、男子卒業生は専門を生かして各界で活躍する機会を得たが、多数派女子学生の就職先はまだまだ少なかった。当時は民間企業では結婚退職を勧奨するところが多かったし、男子のみ採用の求人もまかり通っていた。しかし、全国の大学や短大など教育研究職に就く卒業生や、各専攻を生かした専門職(栄養・建築・心理・福祉など)に就き後輩を励まし活躍を続けた先輩は男女共に多い。さらに教職や保育士免許が取得できることから、中学・高校の教員や、幼児教育界で活躍する卒業生も多数輩出した。

①

仕事や同窓会活動を通じて後輩を育てて下さった先輩方は元・同窓会会長の右田紀久恵氏(府立大学名誉教授・昭和28年社福卒)、河原碧子氏(河原デザインスクール理事長・昭和32年住卒)江幡淳子氏(元・本学部教授・昭和34年食院修了)、山本茂氏(元・日本ヘレンケラー財団理事長・昭和32年社福卒)平野久美子氏(元・本学部教授・昭和34年食卒)、と続く。現会長の岸本幸臣氏(羽衣学園大学学長・昭和38年住卒)も粉骨砕身、同窓会活動に力を注いでくださっている。さらに長年本学部に勤務し卒業生の名簿の作成や地道な同窓会活動の継続に尽力くださったのが元・同窓会副会長の多田吉三氏(名誉教授・昭和29年社福卒)や中根芳一氏(元・学部長・名誉教授・昭和37年住卒)。中根氏は、多分野で活躍する各専攻の教員を集めて「私たちの生活科学」(写真②)という生活科学全体を俯瞰する書を編纂し、生活科学の拡がりと将来を世に問うておられる。

②

学園紛争の嵐が吹き荒れた1968年以降、生活科学部では、管理運営組織「教授会」に助手・講師を含めて全教員が参加するという改革が敢行された。教員は研究とは教育とは、と問い大学改革に真摯に向き合う。当時は半分以上の学部の女性教員数が0～3名と少ない状況だったが、本学部には常時10名程度の女性教員がいた。1979年、女子学生達が固定的な男女の役割分担意識を払拭し、真に男女平等の社会を実現する担い手として巣立つこと、女性のおかれた現状を知り、職業の選択および継続、これからの男女の生き方などに関して確かな自覚をもつ講義が必要であると訴えていた。本学部の女性教員有志はこれを受けて全学部に働きかけ、後に「女性学」と命名される講義を一般教育科目に置く運動を進めた。実現まで20年かかったが2000年にやっと全学の男女学生に受講の場を提供することができた(写真③)。この書には市大のジェンダー問題克服の歴史が描かれている。

③

◇編集後記◇

▼大阪府大との新大学実現に向けて動きが具体化してきた。今後は両大学の主体的取り組みを期待したい。▼五代友厚の銅像が完成、これからがスタートだ。銅像の広場に集う学生の皆さんに五代の志を末永く伝承していただきたい。(編集人)

(株)ブライダルは大阪市立大学同窓会の皆様の「結婚」を応援します。

38年の実績

(株)ブライダルは今まで法人、官公庁、各大学会報誌などで数多くの方々の、結婚のお世話をさせて頂いております。
少子化問題にも「結婚」という形で、社会に貢献できる企業を目指しており、この度、賛同を得て「大阪市立大全学コース」を設立致しました。この同窓会報を見たとおっしゃって下されば、同窓会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に「結婚」を特典付（登録料50%OFF）にてお世話させて頂きます。

大阪市立大全学コース
登録料 50% OFF
●ブライダルコース ¥226,800▶¥210,600 etc.
●エクセレントコース ¥388,800▶¥372,600 etc.
価格は登録料・会員サポート費・月会費（12回分）の税込総額です。
携帯サイト　http://www.bridal-vip.net/m/
右のQRコードにて携帯サイトに簡単にアクセスできます。（一部対応しない機種がございます。）

株式会社ブライダル
Network　東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪
PC・スマートフォン http://www.bridal-vip.co.jp
東京本社　〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F　TEL.03-5325-5505
大阪支社　〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F TEL.06-6442-0666
お問い合わせ（月曜定休）0120-415-412
フリーコールがご利用できない地域があります。その場合は東京本社へお願いします。